平成12年11月1日
気　象　庁

三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島では、9月以降、多量の火山ガスを山頂火口から放出する火山活動が続いています。

島内の火山性地震の回数は9月以降次第に減少し、火山性微動や空振の振幅も小さい状態です。7月から続いていた三宅島の収縮を示す地殻変動は、9月以降次第に鈍化し、現在はほぼ停滞しています。全磁力も8月下旬から変化は停滞しています。

8月29日の噴火以後は、山頂火口から噴煙が連続的に噴出されているものの、火口の外に噴石を降らせるような噴火は見られなくなりました。噴煙の高度は、数百～2000m前後で、10月以降低くなる傾向にあります。噴煙には9月上旬まで火山灰の混入が顕著に認められましたが、10月以降は火山灰は認められなくなりました。

一方、火山ガスの放出量は、8月下旬以降次第に増加しており、9月～10月は、1日あたり約2～5万トン程度の二酸化硫黄の放出が観測されており、世界の活動的な火山と比較しても非常に高い値を保っています。10月下旬に行った観測では、二酸化炭素の放出量も高いことが確認されています。

以上の観測結果は、顕著な地震活動や地殻変動を伴わずにマグマからの脱ガスが続いており、火山の地下の状態がほぼ安定していることを示すと考えられます。このような脱ガス状態が続く限り、山麓に噴石や火砕流を出すような爆発的噴火が発生する可能性は低いと考えられます。

当面は、現在のような多量の火山ガスを放出する活動が続くと考えられますので、火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。